

15:00～16:00

第2部 パネルディスカッション

司会：土屋静馬

(昭和大学医学教育学講座)



日本 Whole Person Care 研究会

Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

15:00～16:00

第2部 パネルディスカッション

「Whole Person Careって何!?!-臨床現場からの質問状

パネリスト:

池永昌之(淀川キリスト教病院緩和医療内科)

高下典子(岡山大学病院腫瘍センター看護師)

小比賀美香子(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科総合内科学)

毛利貴子(奈良県立医科大学糖尿病・内分泌内科学講座)

淀川キリスト教病院緩和医療内科 池永昌之

これまでの全人的ケアは、患者の苦痛を身体的、精神的、社会的、霊的な苦痛に分類して把握し、それぞれの苦痛に対してそれぞれの専門家が介入するという「協働」の色合いが強かったように思います。

しかし、私自身は、このWhole Person Care（新たな全人的ケア）は患者のケアに当たる、あくまで「個」としての存在である私たちに焦点が当てられていると考えています。患者と同じく解決が難しい（複合的な）苦悩を持った「個」である私たちが、患者を前にしてどのように「関わり」、「ふるまう」のかに焦点が当てられているケアのように感じています。

質問状(1)

これまでの全人的ケアとWhole Person Care (新たな全人的ケア)はどう異なると理解するのがよいのでしょうか？

淀川キリスト教病院緩和医療内科 池永昌之

今後、Whole Person Careをわが国で普及させていくためには、臨床現場の医療従事者にもピンとくるような、わかりやすい言葉で紹介できるようになることはとても大切だと思っています。しかし、どうしても「癒し」「自己覚知」「マインドフルネス」「瞑想」という言葉が続くと、難しいと思ってしまう医療従事者も多いような気がします。

質問状(2)

Whole Person Careについて長年取り組んでおられる先生方は、どのような言葉やキーワードをつかって、このWhole Person Careを初めての方にわかりやすく説明されているのでしょうか？

岡山大学病院 高下典子

- 「治療」と「癒し」はどちらもともに医療の本質であり、相違的かつ相乗的である。最善の医療を提供するためには、両者を並行して行っていく必要がある。
(Whole Person Care 実践編 P.45)
- 「治療」と「癒し」の統合がWhole Person Careの真髄である。
(Whole Person Care 実践編 帯)

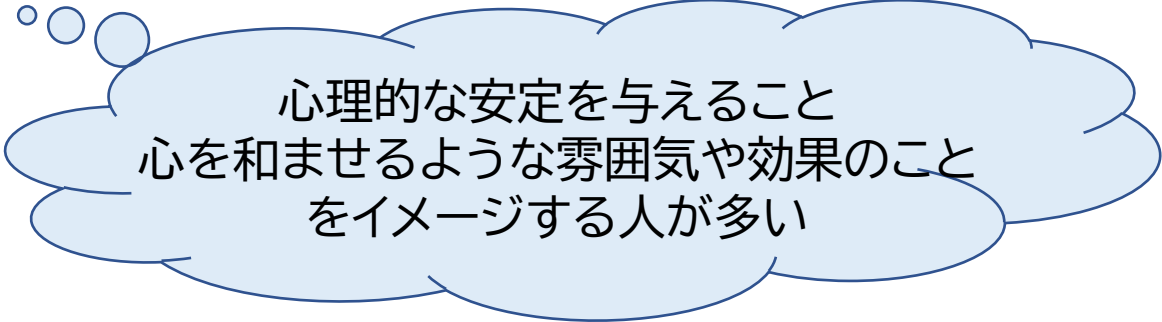
「治療」「癒し」はキーワード

「治療」についてはわかりやすいが、「癒し」について説明するのが難しい

「癒し」について説明するのが難しい

◇一般で使われている「癒し」

- ・心が癒される(温泉、音楽、ペット、お花、アロマ、グッズなど)
- ・癒し系



心理的な安定を与えること
心を和ませるような雰囲気や効果のことをイメージする人が多い

◇Whole Person Careの「癒し」は

「一人の全人として対応してもらうことによって、自分自身に向き合うことになり、**病気に応じて成長する**可能性があり、この現象が癒しなのである」(P.25)とあり、「癒し」を簡単に説明することが難しい。

質問状(3)

「癒し」についてどのように説明したら、
理解につながるでしょうか？

奈良県立医科大学 糖尿病・内分泌内科学 毛利貴子

- 気になる箇所①: 傷ついた癒し人の役割における傷ついた癒し人のイメージ

(新たな全人的ケア医療と教育のパラダイムシフト 40-41p)

- 「医師の健康とは対極にある病気からの激しい苦痛に気づき、医師自身の体と心が変化し、持続的に苦痛を確かに感じられるようになることを象徴している。このような体験により、医師は患者の師というよりはむしろ兄弟になるのである」(グッゲンビュール=クレイグ)・・・面談が上手くいった要因は・・・面談の進行に心を開き、1人ひとりの話を傾聴し、今この瞬間に注意を払えば、状況が打開され、ものごとがよい方向に動き出すと信じたこと・・・変えようとしたのではなく、むしろ患者と夫にとっての可能性を切り開くように試みたのであった。医師・患者という力の差はなくなり、もはや医師としてでも患者の夫としてでもなく、悲しく困難な人生の出来事と向き合い、気遣っている2人の人間になっていた。このように、力関係が根本的に変化する時、患者において、“癒し人・患者”の元型のうちの癒し人が活動するようになる。

どうやって、どうしたら上手くいくだろうかと考えてしまう。態度であることは理解出来るけれど、それを伝えたり教えようとするときに困る。

質問状(4)

傷ついた癒し人のイメージのところに書かれているように、面談が上手くいくにはどうすればよいかと、どうしてもhow to を求めようとしてしまいますが、そうしないようにするためには何が必要でしょうか？

岡山大学総合内科 小比賀 美香子（おびか みかこ）

「Whole Person Care」について、ご自身の臨床の文脈で、気になる箇所、疑問に思うこと、あるいは議論したいこと

- 黒蛇の患者の目標は「成長，発展，自己実現」とされていますが、ここは何となく違和感を感じます。
- ちなみに白蛇は、治療されて、目標は「長生きsurvival」です。
- 患者さんは、癒されて、その目標が「成長，発展，自己実現」となると、患者さんにはちょっときついような気がいたしました。
- たとえ病気が治らなくても、苦痛や苦悩から十分には解放されなくても、そして、成長できなくても、例えば「心の平安」が得られることがある、、くらいにしか言えないようにも思うのですが。

なぜそこが気になるのか？疑問に、
あるいは議論したいのか？

- WPCは「変化させる」のではなく、「変化する」というアプローチなので、黒蛇のアプローチで「結果」的に、患者さんが変化する（成長や発展につながる）ということでしょうか？
- 「目標」になると、やはり「変化させる」ための「目標」になるので、「結果」くらいがちょうど良いように思いました。
- それと、成長や発展や自己実現は、やはり医療者の価値判断であるような気がします。変化前の患者さんの状態が、成長できていない、発展できていない、、そのようにいえるのでしょうか？医療者が判断するのでしょうか？
- そこに、医療者側の患者さんを「成長させたい、あるいは変化させたい」、が透けてみえるように思うのです。
- 「成長や発展や自己実現」しているのは、むしろ医療者側なのではないかと思うのですが、いかがでしょうか？

質問状(5)

黒蛇の患者の目標

「成長, 発展, 自己実現」について、
皆さんはどのようにお考えでしょうか？

岡山大学総合内科 小比賀 美香子

奈良県立医科大学 糖尿病・内分泌内科学 毛利貴子

- 気になる箇所②: 二匹の蛇と医療の二項対立のうち黒い蛇(アスクレピオスの医療)で、患者の目標としての成長すること
- 患者の目標について、白い蛇(ヒポクラテスの医療)では「長生きすること」であり、それを糖尿病患者にあてはめた場合、合併症の回避やHbA1c高値の是正ということになるだろう。一方、黒い蛇(アスクレピオスの医療)では、「成長すること」という言葉は、同僚に具体的に説明したり伝えるときにわかりやすく有効な気がするが、よく考えてみると上から目線な言葉であるような気もする。
- ②HbA1cで患者を診るのでは無い、ということは分かるが、では、何をどう、と上手く同僚にも説明できない時に、成長という言葉は次のスライドのようにすると説明しやすいように思われる。さらによく考えてみると、患者の目標でなくて医師の目標かもしれない。

成長

医師が理解し、共感を伝える、または、前医ではないけれど医療者として謝罪する

糖尿病専門外来
医療者側

医療者側

話を聴く

この迫力からは逃げられない
私に対して怒ってる訳では
なさそうだが
何があったんだろう？

足腰の痛みの解決は
できなくても、血糖の話
ができるようになる。

足腰が痛いと話したときに
受けた医療者の態度に傷
ついたことがあった、などの
出来事に繋がっていた。

足腰が痛いとか、糖尿病
専門医の立場からは、どうにも
出来ないことを延々と話す
(検査結果は聞きたくない)

<二匹の蛇と医療の二項対立>

Whole Person Care 実践編44p

		白い蛇(ヒポクラテスの医療)	黒い蛇(アスクレピオスの医療)
患者	問題	症状や機能障害	苦悩
	可能性	治療されること	癒し
	行動	執着すること	手放すこと
	目標	長生きすること	成長すること
	自己像	疾病の影響を受ける	病に取り組む
医師	焦点	疾病	病のある人間
	コミュニケーション	内容、デジタル、意識的	関係性、アナログ、無意識的
	力	鑑別する力	分かち合う力
	存在	有能な技術者	傷ついた癒し人
	認識	サイエンス	アート
	マネジメント	標準化	個別化
	過程	単純または複雑	複合的

患者側

患者側

質問状(6)

二匹の蛇と医療の二項対立のうち、黒い蛇(アスクレピオスの医療)の患者の目標の「成長すること」というのは、「HbA1cで患者を診ているのではない」と思う糖尿病専門医には分かりやすいです。しかし、よく考えていると、患者の目標でなくて、医師の目標のようにも思えてきましたかどうでしょうか？

16:00～16:25

総合討議

司会:三好智子

(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科くらしき総合診療医学教育講座)



日本 Whole Person Care 研究会

Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

16:25～16:30

閉会挨拶

研究会世話人：木内祐二

(昭和大学副学長、昭和大学薬理学講座)



日本 Whole Person Care 研究会

Whole Person Care Association Japan (WPC-J)